

■ 続・コロナ禍での教育の創造

桂川町教育委員会 教育長 大庭 公正

新型コロナウイルス感染の広がりにからすでに二年以上が経過しています。これからは、終息を待つというよりも、コロナ禍の中でいかに教育活動を実施していくかという新たな視点が求められています。

いつ予測できない状況が発生するかもしれません。不透明な時代だからこそ、その時その時を見据えた確固たる目標がより必要となってきました。

コロナ禍の今、「新たな教育活動の創造」と「感染症対策」という両輪を回していくことが、昨年度に続き教育委員会の仕事だと思っています。

そこで、教育行政が目指す重点目標として、昨年度と同様にはなりませんが、第一に「子どもの生きぬく力を育む」ことです。これまでに増して、豊かな心と健やかな体の育成、確かな学力の定着を進めていくことが不可欠です。そのために、ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、子どもたちの資質・能力の育成を図ります。第二に「学校の教育力を高める」こ

とです。子どもたちや保護者・地域の皆様の不安を払しょくするために、安心・安全の教育環境づくりを目指していきます。授業づくりや生徒指導等、指導力の向上は欠かせません。また、これらを着実なものにする学校長のマネジメント能力を向上させます。

第三に「社会全体で学びを進める」ことです。住民の皆様の行動意欲を高める教育活動を企画・運営・推進していくことで、より一層の地域社会づくりの活性化を目指していきます。

第四に「歴史と文化を育てる」ことです。王塚古墳をはじめ貴重な歴史遺産や文化は本町の宝であり、保存・活用を通して、その価値や魅力を次代に継承することも大きな役割です。さらに、文化・芸術活動を通じた住民の皆様の心の豊かさの醸成を目指していきます。

以上のことを進めていくためには、時代の変化に即応した「発想の転換」が何より不可欠です。このことが、新たな教育の創造につながります。

令和四年度も皆様方のご理解とご協力をいただきながら、教育行政の推進・充実に向けて、果敢に進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

子育て支援センター

「ひまわりのたね」だより

【問合先】子育て支援課 子育て支援係 ☎65・0081



梅野よしみ 保育士

■ ウキウキするような楽しいことがありますように！

ランドセル姿の1年生を見ると、毎年新たな気持ちになります。今年の4月、長いこと務めた吉隈保育所が私立保育園としてスタートすることになり、いろいろ思い出します。砂場に水を入れ泥んこあそび、鬼ごっこ、水あそび、冬は雪あそびと本当によく身体を使って外あそびをしていました。

「ひまわりのたね」の休所中、住民センターで久しぶりに会った親子は「体調を壊していたけど、やつと元気になって外あそびができるようになりました。」とうれしそうでした。また、以前よくあそびに来ていた親子は「私の方が何もする気にならなくて」「子どもたちも家の中ばかりだとケンカばかりで。」親も子もストレスが溜まってきているようです。私の子どもの頃は、家を出ればいつも子どもの集団があり、暗くなるまであそんでいたものです。今の子どもたちは、ゲームや携帯ばかりであそんでいると言われていま

すが、実際は、外であそぶ方が楽しいと感じている子も多いのではないのでしょうか。今はコロナ禍が、子どもたちのあそびたい気持ちを抑えているようで心苦しいです。感染症や戦争、今後子どもたちを取り巻く環境も、いつどうなるかわからない時代だからこそ、身体をしっかりと動かしてあそび、少しでも自分で考えることができるようになって欲しいです。

不安もありますが、ウキウキするような楽しいことがあることを信じて、新年度をスタートしましょう。



▲ かわいい花が咲きましたよ

子育て支援センター 「ひまわりのたね」

【開 館】月～金曜日 9～16時
【場 所】総合福祉センター
「ひまわりの里」内
【対 象】0歳から未就学の子
どもとその保護者
※利用には保護者の付き添い
が必要です
【利用料】無料